

## なごみ農地利用最適化推進運動

農委会名：和水町農業委員会

### 1 地域の概要

和水町は、熊本県の北西部にあり、福岡県との県境に位置する。南北約19 Km、東西約9 Km、面積98.75 km<sup>2</sup>の中山間地帯である。

山間部では、みかん、ブドウ等の経営が行われ、平坦部では、主作物である水稻の外、スイカ、いちご、ナス等の施設園芸が盛んである。

### 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 11人（うち、認定7人、女性2人）
- (2) 推進委員数 17人（うち、認定6人）
- (3) 事務局体制 2人（専任）

### 3 掲げた目標

遊休農地の解消 2ha

### 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

発電大手の電源開発（Jパワー）が、和水町の遊休農地1haでバイオマス燃料用のイネ科の多年草「エリアンサス」を試験栽培しており、令和5年3月に初めて収穫した。

火力発電所で石炭などと混燃させ、化石燃料の使用量抑制を図る技術開発の一環として、国が将来性に注目している。

### 5 取組みの成果（できるだけ数値を用いながら、具体的に）

電源開発の元九州支社長である町民の方が、和水町農業委員会に相談されながら、企業誘致をされ、遊休農地1haの有効活用に繋げることができた。また、同社が栽培を委託する「瑞輝科学生物」が、土地所有者の2者（町民）と管理委託契約を結んだ。



【エリアンサスの植え付け】

6 課題と今後の方針等

令和5年度は、栽培面積を倍以上に増やす計画であり、電源開発の技術開発部としては、「火力発電所での混焼が主な狙いだが、地域の各種ボイラーの代替燃料や、炭化させて土壌改良に用いる道も探りたい。」との意向である。